

インドネシア～ モルッカ諸島のガイドブック

2021年11月9日 竹本 修文 (37)

1. はじめに

筆者は2021年9月に「トルコのイスラム寺院のタイル」を、続いて「青で広がる～フェルメールとオランダ雑感」を投稿した。芸術に関して専門的な知識はないが、空港の保安施設の電力供給システム技術の専門職として欧米の代表的な大空港の現状調査を行い、1977年にオランダのスキポール空港を訪問して以来、観光を含めて15回ほどオランダを訪問し、首都アムステルダムなど各地を旅行した経験があるので投稿した事だった。フェルメールの名画「真珠の耳飾りの少女」にまつわる話から、17世紀のオランダの黄金期に話が発展し、現在のニューヨークのマンハッタン島にオランダが建設した「オランダ西インド会社」に触れると、中城様が「オランダ黄金時代の跡 香料列島モルッカ諸島」を投稿され、筆者は「17世紀のオランダ東インド会社の活動」を投稿した。中城様は、1996年にモルッカ諸島を訪問されており、日本人の傭兵の事をご教示戴くと共に、現地で購入された英語のモルッカ・ガイドブック **Maluku the Moluccas** と、英語のバンダ島に関する歴史 **Indonesian Banda** をお送りくださいました。今回はモルッカ・ガイドブックを紹介し、バンダ島に関する歴史は未完の日本人傭兵と合併して次回に紹介する。

2. 現在のインドネシアの概要

地図の出典：世界地図帳 新訂第4版 平凡社



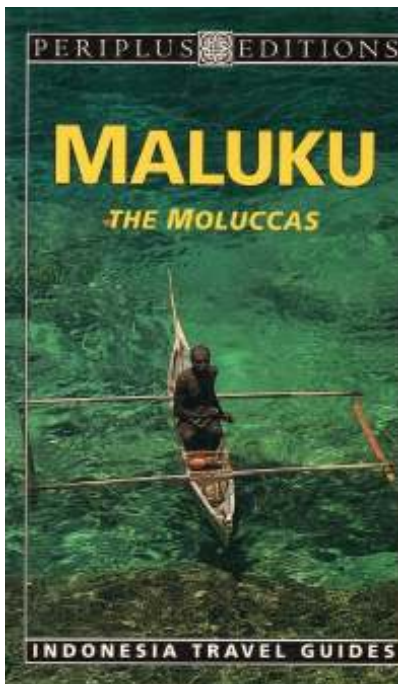
- ✧ 筆者は50年ほど前にスマトラ島に建設された**アルミニウム製造プラント** (PT. INALUM)の超大型整流器の技術を担当したが、スマトラ島の建設現場ではなく、首都の**ジャカルタ**しか行かなかった。その後の出張もすべてジャカルタであり、インドネシアは、シンガポール、マレーシア、タイ、インドと比べると殆ど縁がなかった。映画「南太平洋」のロケ地がバリ島と思い、一度は行きたいと思った事だが、ロケ地はハワイ諸島だったし、バリ島観光もしたことが無い。
- ✧ インドネシアは5,110kmと東西に非常に長く連なる、世界最多の島嶼（＝とうしょ、大小のしまじま）を抱える島国である。国は赤道にまたがる13,466もの大小の島により構成されている。日本にも島が約3,000あるが、殆どが無人島であるのに対してインドネシアでは殆どの島に人が住んでいる。言語は世界に約7,000語あり、インドネシアには約10%の700余りがある。国の公用語はインドネシア語である。
- ✧ 人口は**2億6,400万人**を超える**世界第4位**の規模であり、また世界最大のムスリム人口を有する国家である。東南アジア諸国連合（**ASEAN**）の盟主とされ、ASEAN本部が首都ジャカルタにある。そのため、2009年以降、アメリカ、中国など50か国あまりのASEAN大使がジャカルタに常駐しており、日本も2011年5月26日にジャカルタにASEAN日本政府代表部を開設し、大使を常駐させている。東南アジアから唯一**G20**に参加している。

3. 香辛料の産地

- ① ポルトガル人航海士のマゼランは、スペイン王の承認を得て大西洋を南下し、マゼラン海峡を発見してフィリピン諸島に到達したが、原住民に殺された。生存した部下が航海を継続して、インドネシアのマルク諸島に至って香辛料を持ってポルトガルに帰国した。 ナツメグ等の香辛料を最初にヨーロッパに持ち帰ったのはポルトガルだった。
- ② 16 世紀には、**オランダ東インド会社**がモルッカ諸島の香辛料を独占したが、イギリス東インド会社も進出し、1621 年に武力衝突し、イギリスは一度は撤退し、オランダは 17 世紀の黄金時代を謳歌した。
- ③ ナポレオン戦争中、オランダがフランスに併合されていた頃の 1810 年、オランダ東インド会社のトップが空位だった時に、イギリス軍が一時期モルッカ諸島のバング諸島を征服し、**イギリス東インド会社は、ナツメグの木を周囲の土壌と共にスリランカ、ペナン、スマトラのベンクルやシンガポールへ移植した。**
- ④ イギリスはその後、中米のグレナダなど西インド諸島の植民地にも移植した。
- ⑤ オランダはモルッカ諸島に戻り第 2 次世界大戦まで再征服した。

4. 中城さまからご提供頂いたガイドブック Maluku the Moluccas

- ① モルッカ諸島ガイドブック
 下図は、ガイドブックの表紙
 図 2 は、ガイドブックで紹介している範囲を示す地図
 著者：Dr Karl Muller
 出版社と著作権：1991 年、Periplus Edition Inc.,USA



著者の Dr Karl Muller は英語のサイトでは不明。ドイツ系の名前だが、メキシコ人でインドネシアとメキシコに住む

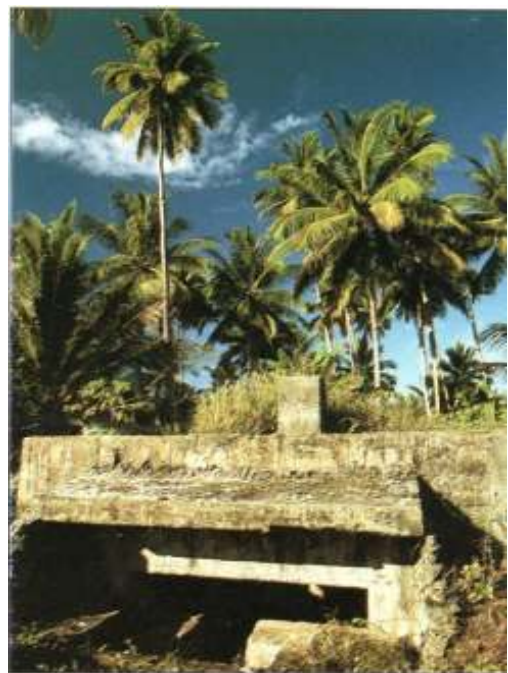
- ② 図 2 の下部のバンダ諸島が香辛料の産地で、**アンボン**が商取引の中心地でモルッカ諸島で最大の都市で、ガイドブック出版当時の 1991 年には人口 20 万人で、二番目の都市は、図 2 上部のヒトデのような島、Halmahera ハルマヘラ島中部の西側の小さな島、Ternate テルナテ島の Ternate Town で人口は 5 万人だった。
- ③ 大航海時代に、ポルトガル人が到着した島で、香辛料のクローヴの産地だった。バンダ諸島やアンボンに 10 月の拙稿、「17 世紀のオランダ東インド会社の活動」で述べたし、日本人傭兵に関する追加投稿を予定しているので、詳細は省略する。

④ ハルマヘラ島 Halmahera

1607年、オランダがオラニエ砦を築き、**オランダ領東インドの中心**にするが、1619年に**中心がジャカルタに移る**。
ガイドブックのテルナテ島の説明に、第二次世界大戦中の日本軍の事が書かれている。

「日本が戦死者慰霊碑を作ったが、現地の人達はすぐに破壊した。その後も何回も修理したが、すぐに壊された。彼らは戦争中に蛮行を行った日本兵士には死後も罰則を与えた」。「テルナテ島には良い武器を装備した100人ほどの兵士がいたが、彼らは楽しむ事ばかりしていた。島の人々は日本兵が通りかかると、20m離れてお辞儀を強要された。娘を持つ男は、娘か自分の頭を差し出すように選択を迫られた。10歳ほどの少女たちが子豚を運ぶように紐で繋がれて兵士のおもちゃにされた。

図3



日本軍の基地があった KAO (図3) 近くの、高射砲と防空壕